

# 令和6年度学校教育自己診断の集計結果の分析と今後の取り組みについて

《教務部》

## ■生徒アンケート項目および集計結果

### 5 授業はわかりやすい。

A	全 学 年	32.9%	1 年	33.3%	2 年	28.6%	3 年	25.0%	4 年	41.2%
B		51.4%		55.6%		35.7%		66.7%		47.1%
C		15.7%		11.1%		35.7%		8.3%		11.8%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 84.3% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	64.3%	91.7%	88.2%	
91.9% [R5]、76.9% [R4]				

### 6 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。

A	全 学 年	31.4%	1 年	11.1%	2 年	28.6%	3 年	50.0%	4 年	52.9%
B		51.4%		66.7%		57.1%		33.3%		35.3%
C		14.3%		14.8%		14.3%		16.7%		11.8%
D		2.9%		7.4%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 82.8% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
77.8%	85.7%	83.3%	88.2%	
86.5% [R5]、84.6% [R4]				

## 【学校としての受け止め方（分析）】

5、6ともに80%を超える高い肯定率となっており、各授業において動機付けや生徒の理解を意識した授業展開が実施されていることが伺える。5、6の回答傾向が似ていることから、質問のしやすい雰囲気が生徒の学習活動への意欲に関係していると考えられる。

6の質問から、各学年において質問しにくいと感じている生徒がいており、すべての生徒が質問しやすいと感じる工夫も必要なことが伺える。

## 【今後の方向性について（対応）】

質問をしにくいと感じている生徒の理由が、授業の構成であるのか、教職員との関係性であるのか、集団の中での発言の不安感であるのか、正確には分析できないが、カリキュラム委員会等を通じて、今回の分析結果を各教科と共有し、生徒のつまづきを解消する手立てを検討することを依頼したい。

## ■保護者アンケート項目および集計結果

### 5 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。

A	全 学 年	23.1%	1 年	35.3%	2 年	0.0%	3 年	0.0%	4 年	25.0%
B		51.3%		41.2%		100%		0.0%		58.3%
C		25.6%		23.5%		0.0%		100%		16.7%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 74.4% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
76.5%	100%	0%	83.3%	
68.8% [R5]、74.2% [R4]				

### 6 成績票は、子どもの学力や学習の達成状況などがわかりやすく、見やすい。

A	全 学 年	61.5%	1 年	70.6%	2 年	50.0%	3 年	25.0%	4 年	66.7%
B		33.3%		29.4%		50.0%		75.0%		16.7%
C		5.1%		0.0%		0.0%		0.0%		16.7%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 94.8% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
100%	100%	100%	83.3%	
93.9% [R5]、90.3% [R4]				

### 16 学校は、保護者が授業を参観する機会を設けている。

A	全 学 年	89.7%	1 年	94.1%	2 年	83.3%	3 年	75.0%	4 年	91.7%
B		10.3%		5.9%		16.7%		25.0%		8.3%
C		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 100% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
100%	100%	100%	100%	
96.9% [R5]、90.3% [R4]				

【学校としての受け止め方（分析）】

5については、学年によるばらつきが確認できる。それぞれの学年で学習内容や教科担当は異なるが、何より生徒の回答との誤差が大きいことより、質問内容の“楽しい”という言葉が影響しているのではないかと考えられる。

6については、校務処理システムによる出力となるため、固定化されたレイアウトであるため、様式としての工夫ではなく、成績票に関する説明文書などでの対応が必要と考える。今年度は、実際に成績送付の際に成績票の見方を添付している。若干ではあるが、そのことが肯定率の上昇につながっていると考えられる。

16については、今年度は授業参観の機会を前期3日、後期1日と増やした結果ではないかと考える。

【今後の方向性について（対応）】

生徒の分析と同様であるが、今回の分析結果をカリキュラム委員会等で各教科代表の教職員と共有し、各教科における「わかりやすく、楽しい授業」の工夫を今一度各教科で検討いただく予定。成績票や授業参観については、管理職と連携しながら、これまでのことを継続的に行っていく。

《生徒部》

■生徒アンケート項目および集計結果

8 先生はいじめや私たちが困っていることなどについて、真剣に対応してくれる。

A	全 学 年	57.0%	1 年	40.7%	2 年	64.3%	3 年	58.3%	4 年	64.7%	肯定率(全体)： 92.7% 【R6】			
B		35.7%		44.4%		21.4%		41.7%		35.3%	1年	2年	3年	4年
C		7.3%		14.8%		14.3%		0.0%		0.0%	85.2%	85.7%	100%	100%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	94.6% 【R5】、93.8% 【R4】			

10 学校生活についての先生の生徒指導は納得できる。

A	全 学 年	43.9%	1 年	29.6%	2 年	42.9%	3 年	50.0%	4 年	52.9%	肯定率(全体)： 89.7% 【R6】			
B		45.9%		48.1%		50.0%		50.0%		35.3%	1年	2年	3年	4年
C		7.9%		18.5%		7.1%		0.0%		5.9%	77.8%	92.9%	100%	88.2%
D		2.4%		3.7%		0.0%		0.0%		5.9%	75.7% 【R5】、87.7% 【R4】			

18 学校で、交通ルールや交通マナーについて学ぶ機会がある。

A	全 学 年	70.7%	1 年	48.1%	2 年	71.4%	3 年	75.0%	4 年	88.2%	肯定率(全体)： 98.1% 【R6】			
B		27.5%		44.4%		28.6%		25.0%		11.8%	1年	2年	3年	4年
C		1.9%		7.4%		0.0%		0.0%		0.0%	92.6%	100%	100%	100%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	95.9% 【R5】 ※R5年度より質問を実施			

22 先生は学校で事件や地震、火災などが起こった場合、どう行動したらよいかを教えてくれている。

A	全 学 年	51.7%	1 年	40.7%	2 年	28.6%	3 年	66.7%	4 年	70.6%	肯定率(全体)： 89.0% 【R6】			
B		37.4%		29.6%		57.1%		33.3%		29.4%	1年	2年	3年	4年
C		9.1%		22.2%		14.3%		0.0%		0.0%	70.4%	85.7%	100%	100%
D		1.9%		7.4%		0.0%		0.0%		0.0%	91.9% 【R5】、90.8% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

すべての項目において、肯定率が 85%以上と非常に高い数値となっていることから、本校での生徒指導に生徒が理解と納得をしてくれていることが伺える。

【今後の方向性について（対応）】

今後については、これまで同様に生徒へのメッセージを大切に、継続的に業務に取り組むことが望ましいと考える。

■保護者アンケート項目および集計結果

7 先生は子どもの間違っただ行動を丁寧に指導してくれる。

A	全学年	52.8%	1年	52.9%	2年	33.3%	3年	50.0%	4年	75.0%	肯定率(全体)： 88.7% 【R6】			
B		35.9%		35.3%		66.7%		25.0%		16.7%	1年	2年	3年	4年
C		9.2%		11.8%		0.0%		25.0%		0.0%	88.2%	100%	75.0%	91.7%
D		2.1%		0.0%		0.0%		0.0%		8.3%	69.7% 【R5】、93.5% 【R4】			

8 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。

A	全学年	60.5%	1年	58.8%	2年	83.3%	3年	25.0%	4年	75.0%	肯定率(全体)： 81.3% 【R6】			
B		20.7%		41.2%		16.7%		0.0%		25.0%	1年	2年	3年	4年
C		12.5%		0.0%		0.0%		50.0%		0.0%	100%	100%	25.0%	100%
D		6.3%		0.0%		0.0%		25.0%		0.0%	93.9% 【R5】、80.6% 【R4】			

10 学校の生徒指導の方針に共感できる。

A	全学年	50.7%	1年	52.9%	2年	33.3%	3年	50.0%	4年	66.7%	肯定率(全体)： 91.7% 【R6】			
B		41.0%		47.1%		66.7%		25.0%		25.0%	1年	2年	3年	4年
C		8.3%		0.0%		0.0%		25.0%		8.3%	100%	100%	75.0%	91.7%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	87.9% 【R5】、90.3% 【R4】			

18 学校はスマホやSNSの利用に関わる指導を行い、子どもに個人情報を守る大切さを理解させようと努めている。

A	全学年	40.9%	1年	47.1%	2年	33.3%	3年	25.0%	4年	58.3%	肯定率(全体)： 95.0% 【R6】			
B		54.1%		41.2%		66.7%		75.0%		33.3%	1年	2年	3年	4年
C		5.0%		11.8%		0.0%		0.0%		8.3%	88.2%	100%	100%	91.7%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	93.8% 【R5】、90.3% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

生徒同様、すべての項目において、肯定率が 80%以上と非常に高い数値となっていることから、本校での生徒指導に一定のご理解とご納得をいただけていることが伺える。しかし、質問 8 については、3 年次だけ著しく低い肯定率になっており、生徒の訴えなどに対して真摯に対応できているのかなどを改めて確認する必要性を感じている。

【今後の方向性について（対応）】

今後については、これまで保護者の皆様のご理解に繋がるように、さまざま取組みや方針についても丁寧に発信していく必要があると感じています。また、今回の結果を受け、校内でも現状の取組みや対応等を改めて精査していきたいと思ひます。

## 《生徒部（生徒会）》

### ■生徒アンケート項目および集計結果

13 文化祭は、楽しく行えるように工夫されている。

A	全学年	41.4%	1年	37.0%	2年	14.3%	3年	50.0%	4年	64.7%
B		47.1%		51.9%		64.3%		41.7%		29.4%
C		8.6%		7.4%		21.4%		8.3%		0.0%
D		2.9%		3.7%		0.0%		0.0%		5.9%

肯定率(全体)：88.5%【R6】				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	78.6%	91.7%	94.1%	
79.7%【R5】、90.8%【R4】				

14 体育祭は、楽しく行えるように工夫されている。

A	全学年	47.1%	1年	44.4%	2年	21.4%	3年	50.0%	4年	70.6%
B		42.9%		44.4%		57.1%		50.0%		23.5%
C		7.1%		7.4%		21.4%		0.0%		0.0%
D		2.9%		3.7%		0.0%		0.0%		5.9%

肯定率(全体)：90.0%【R6】				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	78.6%	100%	94.1%	
85.1%【R5】、90.8%【R4】				

15 生徒の意見を反映し、充実した生徒会活動が行われていると思う。

A	全学年	37.1%	1年	22.2%	2年	21.4%	3年	58.3%	4年	58.8%
B		44.3%		51.9%		42.9%		41.7%		35.3%
C		18.6%		25.9%		35.7%		0.0%		5.9%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)：81.4%【R6】				
1年	2年	3年	4年	
74.1%	64.3%	100%	94.1%	
85.1%【R5】、90.8%【R4】				

16 本校の部活動は、参加している生徒が充実した活動を行えていると思う。

A	全学年	40.0%	1年	41.6%	2年	38.5%	3年	75.0%	4年	43.8%
B		45.7%		50.0%		46.2%		16.7%		37.5%
C		12.9%		4.2%		15.4%		8.3%		0.0%
D		1.4%		4.2%		0.0%		0.0%		18.8%

肯定率(全体)：85.7%【R6】				
1年	2年	3年	4年	
91.6%	84.6%	91.7%	81.2%	
79.7%【R5】、83.1%【R4】				

### 【学校としての受け止め方（分析）】

- 13 → 昨年度は実施形態の急な変更もあり、上級学年を中心に肯定率があまり高くなかった。今年度は昨年度の経験を生かし実施できたため、生徒は昨年度より積極的に取り組めたと感じており、それが肯定率上昇の要因だと考えられる。
- 14 → 今年度は学年単位での団編成ではなく、それぞれの学年・クラスを赤団と白団の編成する縦割りで行い、クラスの男女比の問題を解消する工夫を行った。その結果、昨年度より肯定率が上昇したと考えられる。
- 15 → 行事の企画と運営に関しては、生徒会執行部会議にて、昨年のアンケート結果などを踏まえて実施形態を検討している。しかし、昨年度より肯定率が下がっているのは、生徒のニーズに応じた立案や工夫ができていない部分があることや、多様な意見を回収しきれなかった部分があると考えられる。
- 16 → 年度当初の部活動紹介や、定期的実施する部活動代表者会議を中心に、より充実した部活動の実施に向けて、生徒会執行部が運営を行えつつあると感じている。

### 【今後の方向性について（対応）】

- 13 → 1割強の生徒が否定的に捉えている。様々な事情を抱える生徒が多数いるという状況を踏まえて、それぞれ生徒が自分の長所を生かせる文化祭となるため、更なる改善や工夫を生徒会執行部が中心となり、考えていく必要がある。
- 14 → 1割の生徒が否定的に捉えていて、まずは体育祭(運動)を苦手とする生徒に向けた工夫が必要であると考えている。走るのが苦手な生徒も活躍できる種目を取り入れるなどして、さまざまな生徒が活躍でき、体育祭に前向きに臨めるよう促していく。

- 15 → 2 割弱の生徒が否定的に捉えている。この要因として、生徒アンケートなどからしっかりと生徒の意見を取り入れられていないのだと考えている。また決定事項において、全生徒に理解を得られるような説明を行い、生徒からの意見を取り入れている部分について、しっかり認識してもらう必要があると考えている。
- 16 → 今後は、生徒会執行部と各部活動の連携を図って、部活動の更なる活性化を進めていく必要がある。また行事などにおいても、部活動生徒が活躍できる場面を設けるなどして、多くの生徒に部活動部員の頑張っている姿を見てもらうことも必要であると考えている。

■保護者アンケート項目および集計結果

12 この学校の体育祭や文化祭、部活動は活発である。

A	全 学 年	69.2%	1 年	70.6%	2 年	66.7%	3 年	50.0%	4 年	75.0%	肯定率(全体)： 97.4% [R6] 1年 2年 3年 4年 100% 100% 75.0% 100% 96.9% [R5]、93.5% [R4]
B		28.2%		29.4%		33.3%		25.0%		25.0%	
C		2.6%		0.0%		0.0%		25.0%		0.0%	
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	

【学校としての受け止め方（分析）】

昨年度と同じく高い肯定率となった。行事前には、必ず保護者の方々への事前に案内を行い、生徒が頑張っている姿を観覧いただけるようにしてきた結果であると考えている。今後もこれを継続し、行事においての保護者の方の観覧者数を増やして、本校の学校行事が活発であることの理解を得られるようにしていくことが必要である。

【今後の方向性について（対応）】

残念ながら3年次だけが肯定率 75%となったが、これは決して低い数値ではないと受け取っています。しかし、この結果をもとに次年度は担任の先生やクラスの生徒と連携して、より多くの保護者の方に観覧いただき、さらなる肯定率の上昇をめざしていく。

《修学部》

■生徒アンケート項目および集計結果

11 進路や将来の生き方について考える機会がある。

A	全 学 年	48.9%	1 年	29.6%	2 年	28.6%	3 年	66.7%	4 年	70.6%	肯定率(全体)： 91.0% [R6] 1年 2年 3年 4年 85.2% 92.9% 91.7% 94.1% 86.5% [R5]、92.3% [R4]
B		42.1%		55.6%		64.3%		25.0%		23.5%	
C		9.0%		14.8%		7.1%		8.3%		5.9%	
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	

12 学校は、自分の進路に合わせて、必要な奨学金制度についての情報を知らせてくれている。

A	全 学 年	51.3%	1 年	33.3%	2 年	42.9%	3 年	58.3%	4 年	70.6%	肯定率(全体)： 91.7% [R6] 1年 2年 3年 4年 74.1% 92.9% 100% 100% 98.6% [R5]、96.9% [R4]
B		40.5%		40.7%		50.0%		41.7%		29.4%	
C		8.3%		25.9%		7.1%		0.0%		0.0%	
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	

【学校としての受け止め方（分析）】

項目 11

1年次、2年次は「A」より「B」を回答した人数が多く、3年次、4年次は「B」より「A」を回答した人数が多い。1年次は学校生活に慣れ、登校が定着し、2年次は学業への意欲を高める時期であることから、HR等で進路のみに特化した内容はおこなっておらず、「B」の回答者が多いと考えられる。3年次、4年次は、「進路ガイダンス」「卒業生の進路体験を聞く会」など、合同で実施する進路HRがあり、生徒が進路や将来を考える機会が多くなることが関係していると考えられる。

項目 12

年次が上がるに連れて、「B」の回答者より「A」の回答者が増えていっている。1、2年次は生徒自身の進路の方向性が決まっていなかったため、個別へのアプローチが難しいが、3、4年次になると進学・就職の希望が見えてくるため、奨学金担当者から担任を通してのアプローチがしやすくなったためと考える。

また、過去3年間を比較すると【R6】の肯定率が少し下がっている。これは、【R6】のアンケートから文言に「自分の進路に合わせて、必要な」を付け加えてことが考えられる。

【今後の方向性について（対応）】

項目 11

1、2年次が進路を考える機会をどのように作っていくかが課題ではあるが、本校の特色として不登校経験のある生徒や、学校生活の定着が困難生徒も多いため、まずは学校生活全般の充実を最優先に考えていきたい。

項目 12

引き続き、まずは掲示による全体連絡を続け、個別に必要な件については奨学金担当者と担任で相談し、生徒に伝える方法が適切だと考えている。

■保護者アンケート項目および集計結果

11 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。

A	全学年	54.9%	1年	52.9%	2年	33.3%	3年	50.0%	4年	83.3%
B		40.1%		35.3%		66.7%		50.0%		8.3%
C		5.0%		11.8%		0.0%		0.0%		8.3%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 95.0% 【R6】			
1年	2年	3年	4年
88.2%	100%	100%	91.7%
93.9% 【R5】、87.1% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

項目 11

1年次に「A」の回答者が多いのは、保護者懇談などを通して4年間を見据えての学校生活の過ごし方を提示しているからではないかと考える。2、3年次では生徒自身に進路指導をする段階に

なるため、生徒への情報が多くなっていることが保護者と生徒との回答結果に差になっていると思われる。

【今後の方向性について（対応）】

原則、生徒への進路指導の充実を最優先にすることは変わらないが、保護者への進路説明の機会をどのように確保するかを検討する。ほとんどの学年が夏休みに保護者懇談をおこなうので、進路についての情報を担任から保護者に伝える機会とすることも検討していきたい。

《保健総務部》

■生徒アンケート項目および集計結果

17 学校では、自他を思いやる心や命の大切さ、また社会のルールについて学ぶ機会がある。

A	全 学 年	51.4%	1 年	40.7%	2 年	42.9%	3 年	58.3%	4 年	70.6%	肯定率(全体)： 94.3% 【R6】			
B		42.9%		48.1%		50.0%		41.7%		29.4%	1年	2年	3年	4年
C		4.3%		7.4%		7.1%		0.0%		0.0%	88.9%	92.9%	100%	100%
D		1.4%		3.7%		0.0%		0.0%		0.0%	86.5% 【R5】、83.1% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

今年度、保健総務部では、「性に関する指導」「がん教育」を行った。肯定率の高さはこれらがうまく生徒たちの関心や理解に繋がったからだと考える。また、人権講演会の内容とも関連があったことから、生徒たちにとって、深く印象に残ったように感じる。また、「保健だより」を Google サイト上に投稿し、新号を見る度に以前の記事にも触れられるようにしたことが生徒の関心につながったと考えている。

【今後の方向性について（対応）】

「がん教育」については、在学中に一度は触れることとしたため毎年実施しないが、保健に関わる行事を教科「保健」や他分掌や委員会の取組みとうまく連動させながら、効果的に充実させていきたい。心身の健康や命を大切にすることを育めるよう保健だよりを継続的に発信していきたい。

■保護者アンケート項目および集計結果

9 子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる。

A	全 学 年	71.8%	1 年	88.2%	2 年	50.0%	3 年	25.0%	4 年	75.0%	肯定率(全体)： 94.9% 【R6】			
B		23.1%		11.8%		50.0%		25.0%		25.0%	1年	2年	3年	4年
C		5.1%		0.0%		0.0%		50.0%		0.0%	100%	100%	50.0%	100%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	97.0% 【R5】、87.1% 【R4】			

14 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。

A	全学年	59.0%	1年	47.1%	2年	66.7%	3年	50.0%	4年	75.0%	肯定率(全体)： 97.5% 【R6】			
B		38.5%		47.1%		33.3%		50.0%		25.0%	1年	2年	3年	4年
C		2.6%		5.8%		0.0%		0.0%		0.0%	94.2%	100%	100%	100%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	96.9% 【R5】、93.5% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

昨年度より、学校医および学校歯科医による健康相談を年各3回実施している。昨年度の利用者は1名のみだったが、今年度は計10名と増加した。学校に相談機会があることは生徒や保護者の安心に繋がっており、結果として高い肯定率が維持できたと考えている。14については、生徒アンケートの分析と同様である。

【今後の方向性について（対応）】

健康相談の機会が学校にあることを継続的に発信していく。

《学年（1年次）》

■生徒アンケート項目および集計結果

1 学校に行くのが楽しい。

A	全学年	25.8%	1年	33.3%	2年	14.3%	3年	8.3%	4年	47.1%	肯定率(全体)： 60.9% 【R6】			
B		35.1%		44.4%		35.7%		25.0%		35.3%	1年	2年	3年	4年
C		32.8%		11.1%		50.0%		58.3%		11.8%	77.8%	50.0%	33.3%	82.3%
D		6.3%		11.1%		0.0%		8.3%		5.9%	68.1% 【R5】、73.8% 【R4】			

2 この学校に入学してよかったと思う。

A	全学年	41.8%	1年	37.0%	2年	35.7%	3年	41.7%	4年	52.9%	肯定率(全体)： 88.3% 【R6】			
B		46.5%		51.9%		42.9%		50.0%		41.2%	1年	2年	3年	4年
C		10.2%		11.1%		21.4%		8.3%		0.0%	88.9%	78.6%	91.7%	94.1%
D		1.5%		0.0%		0.0%		0.0%		5.9%	86.5% 【R5】、84.6% 【R4】			

3 学校に友人がいる。

A	全学年	66.6%	1年	55.6%	2年	64.3%	3年	58.3%	4年	88.2%	肯定率(全体)： 88.9% 【R6】			
B		22.3%		29.6%		14.3%		33.3%		11.8%	1年	2年	3年	4年
C		5.4%		7.4%		14.3%		0.0%		0.0%	85.2%	78.6%	91.7%	100%
D		5.7%		7.4%		7.1%		8.3%		0.0%	83.8% 【R5】、90.8% 【R4】			

4 学校の先生は、生徒の話聞いてくれる機会がよくある。

A	全学年	45.7%	1年	40.7%	2年	35.7%	3年	41.7%	4年	64.7%	肯定率(全体)： 92.2% 【R6】			
B		46.5%		48.1%		50.0%		58.3%		29.4%	1年	2年	3年	4年
C		7.8%		11.1%		14.3%		0.0%		5.9%	88.9%	85.7%	100%	94.1%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	87.8% 【R5】、93.8% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

すべての質問項目に対して、1年次では肯定率が高くなっているが、質問1・2について否定的な回答をしている生徒は現状に不満や不安を抱えていたり、入学後に嫌なことがあったり、そもそも進学したくなかったと感じているのではないかと心配している。

また、質問3については、他者と関わりが苦手といっている生徒がいたり、友人関係をうまく築けない生徒がいたりすることも把握しており、そういった生徒の回答ではないかと考えている。質問4に否定的な回答をしている生徒は、伝えたくても伝えられない状況になってしまっている可能性があり、これについても心配である。

【今後の方向性について（対応）】

さまざまな場面において、不安や心配事を教員に伝えることのできる環境づくりをより意識して整える必要を感じている。学年としての関わりを意識しながら、それぞれの生徒のニーズや思いを受け取り、嫌な思いをさせない環境づくりも重要であると考えている。

■保護者アンケート項目および集計結果

1 子どもは学校に行くのを楽しみにしている。

A	全学年	47.9%	1年	33.3%	2年	33.3%	3年	100%	4年	25.0%
B		39.4%		41.0%		50.0%		0.0%		66.7%
C		12.7%		25.7%		16.7%		0.0%		8.3%
D										

肯定率(全体)： 87.3% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
74.3%	83.3%	100%	91.7%	

2 先生は子どもを理解している。

A	全学年	41.8%	1年	58.8%	2年	33.3%	3年	25.0%	4年	50.0%
B		38.0%		35.3%		66.7%		0.0%		50.0%
C		20.2%		5.9%		0.0%		75.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 79.8% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
94.1%	100%	25.0%	100%	
75.8% [R5]、90.3% [R4]				

4 保護者として学校への要望を伝える機会がある。

A	全学年	58.7%	1年	76.5%	2年	66.7%	3年	25.0%	4年	66.7%
B		28.8%		23.5%		16.7%		50.0%		25.0%
C		10.4%		0.0%		16.7%		25.0%		0.0%
D		2.1%		0.0%		0.0%		0.0%		8.3%

肯定率(全体)： 87.5% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
100%	83.3%	75.0%	91.7%	
68.8% [R5]、74.2% [R4]				

13 子どもは、学校に友人がいると言っている。

A	全学年	73.9%	1年	70.6%	2年	50.0%	3年	100%	4年	75.0%
B		14.0%		5.9%		33.3%		0.0%		16.7%
C		10.7%		17.6%		16.7%		0.0%		8.3%
D		1.5%		5.9%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 87.9% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
76.5%	83.3%	100%	91.7%	
84.8% [R5] 83.9% [R4]				

【学校としての受け止め方（分析）】

質問1については、生徒の回答と非常に酷似した結果となっていることより、生徒が家庭で学校の状況などを保護者の方々とよく話をしているのではないかと考えられる。

質問2の肯定率が高いことは大変喜ばしいことである。ただ、否定的な回答も存在しているので、改めて生徒対応についてを振り返る必要があると感じています。

質問3については、日頃よりご家庭への連絡を密に実施していることが高い肯定率につながったのではないかと感じています。

質問4については、否定的な回答の割合が20%を超えており、他者との関わりや友人関係の構築に不安を抱えている生徒たちを今後の活動の中でサポートしていくことが必要と感じています。

【今後の方向性について（対応）】

今後も維持・継続させていくことが良いことや更なる改善・検討が必要な取り組みがあると感じている。そのためにも生徒一人ひとりの声をよく聞き、ご家庭との連絡を密に取りながらご家庭と連携した指導体制を確立させていく必要性を感じている。また、さまざまな行事でのクラスメイトとの関わりを大切にし、より良い関係性の構築に向けたサポートを考えていきたい。

《学年（2年次）》

■生徒アンケート項目および集計結果

1 学校に行くのが楽しい。

A	全学年	25.8%	1	33.3%	2	14.3%	3	8.3%	4	47.1%
B	全学年	35.1%	1	44.4%	2	35.7%	3	25.0%	4	35.3%
C	全学年	32.8%	1	11.1%	2	50.0%	3	58.3%	4	11.8%
D	全学年	6.3%	1	11.1%	2	0.0%	3	8.3%	4	5.9%

肯定率(全体)： 60.9% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
77.8%	50.0%	33.3%	82.3%	
68.1% 【R5】、73.8% 【R4】				

2 この学校に入学してよかったと思う。

A	全学年	41.8%	1	37.0%	2	35.7%	3	41.7%	4	52.9%
B	全学年	46.5%	1	51.9%	2	42.9%	3	50.0%	4	41.2%
C	全学年	10.2%	1	11.1%	2	21.4%	3	8.3%	4	0.0%
D	全学年	1.5%	1	0.0%	2	0.0%	3	0.0%	4	5.9%

肯定率(全体)： 88.3% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	78.6%	91.7%	94.1%	
86.5% 【R5】、84.6% 【R4】				

3 学校に友人がいる。

A	全学年	66.6%	1	55.6%	2	64.3%	3	58.3%	4	88.2%
B	全学年	22.3%	1	29.6%	2	14.3%	3	33.3%	4	11.8%
C	全学年	5.4%	1	7.4%	2	14.3%	3	0.0%	4	0.0%
D	全学年	5.7%	1	7.4%	2	7.1%	3	8.3%	4	0.0%

肯定率(全体)： 88.9% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
85.2%	78.6%	91.7%	100%	
83.8% 【R5】、90.8% 【R4】				

4 学校の先生は、生徒の話を聞いてくれる機会がよくある。

A	全学年	45.7%	1	40.7%	2	35.7%	3	41.7%	4	64.7%
B	全学年	46.5%	1	48.1%	2	50.0%	3	58.3%	4	29.4%
C	全学年	7.8%	1	11.1%	2	14.3%	3	0.0%	4	5.9%
D	全学年	0.0%	1	0.0%	2	0.0%	3	0.0%	4	0.0%

肯定率(全体)： 92.2% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	85.7%	100%	94.1%	
87.8% 【R5】、93.8% 【R4】				

【学校としての受け止め方（分析）】

項目1～4だけでなく、2年次生徒の学校教育自己診断での否定的な回答の割合が昨年度に比べて高くなっている。前期、後期での面談では直接不満等を聞くことはなかった。このことから、1年次は学校に来ることで精一杯だったが、2年次になり学校に慣れていく中で小さな不満や違和感を持っている生徒が増えていると分析できる。

項目1（前年度との肯定率比較：R5年度 64.7%→R6年度 50.0%）

昨年度も肯定率 64.7%と他の学年より低い肯定率であったが、今回はこれを下回った。原因としては、2年次は1年次より科目数が多く、授業内容が複雑化しているため、授業内容に困難さを覚えている生徒が多いことが肯定率低下の原因だと考える。

一方で、「14 体育祭は楽しく行えるように工夫されている。」、「15 文化祭は楽しく行えるように工夫されている。」の項目についてはいずれも肯定率 78.6%、また「16 本校の部活動は、参加

している生徒が充実した活動を行えていると思う。」の項目についても肯定率 84.6%と高いことから、授業面が一番の原因であると分析できる。

5 授業はわかりやすい【R5】			
肯定率(全体)： 83.3%			
1年	2年	3年	4年
76.5%	100%	95.7%	94.7%

5 授業はわかりやすい【R6】			
肯定率(全体)： 83.3%			
1年	2年	3年	4年
88.9%	64.3%	91.7%	88.2%

項目2 (前年度との肯定率比較：R5年度 88.2%→R6年度 78.6%)

昨年度よりも肯定率が下回っているが、「1 学校に行くのが楽しい。」の肯定率が 50.0%の中で、この学校に入学してよかったと感じている生徒が 78.6%いることがわかる。このことから、学校は楽しいとは別に、この学校に入ってよかったと感じている生徒が多いことがわかる。

項目3 (前年度との肯定率比較：R5年度 70.6%→R6年度 78.6%)

現級留置生や退学者が多く、転入してきた生徒がいる中でも肯定率が上がっている。クラスの人数が少なくなったことや、宿泊学習によって生徒同士の関わりが深くなったと考えられる。

項目4 (前年度との肯定率比較：R5年度 94.1%→R6年度 85.7%)

昨年度よりも肯定率が下回っているが、それでも高い肯定率であることはありがたいことである。肯定率が下回った原因として、担任を含め学年団が変わり、関係性を再構築している途中の生徒がいることが考えられる。

#### 【今後の方向性について (対応)】

項目1

1年次、2年次では学校生活に慣れさせるために教員主体でHRや行事を取り決めることが多かった。3年次以降は各クラス役員に役割を与え生徒主体で行事等を取り決めさせるなど、生徒のクラスにおける自己有用感を高めるよう心掛けたい。授業に困難さを抱えている生徒については、始業前や放課後に個別に授業の復習をするなど、学習面のサポートをしていきたい。

項目2

3年次以降は進路指導が本格的に始まるため、生徒の希望する進路実現に向けて、更なるコミュニケーションの充実ときめ細かな指導を行っていきたい。それによってこの項目の肯定率が高まると考える。

項目3

3年次は、学校にも慣れ生徒間トラブルが起こりやすい。そのため、生徒の些細な変化を見逃さないように、より密にコミュニケーションをとることを意識していきたい。

項目4

昨年度と今年度の自己診断の結果を分析した結果、表面上には表れていないが、一定数の生徒が現状の学校生活に不満を抱えていることが分かった。特に学習面や、教員とのコミュニケーションに困難さを感じている生徒が増えていることが分かった。

今年度は、生徒との個人面談を2回実施したが、日ごろからのコミュニケーションが不足してい

たと感じている。特定の気になる生徒と深くかかわることが多く、他の生徒への関わりが不足してしまっていたと感じるため、一人ひとりに悩みや不満があることを再認識し、いつでも話せる、話してよいというメッセージをHR等で伝え、生徒の意見を吸い上げる必要があると感じた。

また、今年度は文化祭において、準備期間中の予定とは異なったスケジュール進行や、当日の欠席者の代役等、こちらの準備不足によって生徒の負担を強いることが多かった。今年度も前もってHR計画を行っていたが、不測の事態に対応しきれなかったため、次年度はより余裕を持たせたHR計画を進める。より良いHR運営、文化祭運営を実践していきたい。

## ■保護者アンケート項目および集計結果

### 1 子どもは学校に行くのを楽しみにしている。

A	全学年	47.9%	1年	33.3%	2年	33.3%	3年	100%	4年	25.0%
B		39.4%		41.0%		50.0%		0.0%		66.7%
C		12.7%		25.7%		16.7%		0.0%		8.3%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 87.3% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
74.3%	83.3%	100%	91.7%	
62.5% [R5]、80.6% [R4]				

### 2 先生は子どもを理解している。

A	全学年	41.8%	1年	58.8%	2年	33.3%	3年	25.0%	4年	50.0%
B		38.0%		35.3%		66.7%		0.0%		50.0%
C		20.2%		5.9%		0.0%		75.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 79.8% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
94.1%	100%	25.0%	100%	
75.8% [R5]、90.3% [R4]				

### 4 保護者として学校への要望を伝える機会がある。

A	全学年	58.7%	1年	76.5%	2年	66.7%	3年	25.0%	4年	66.7%
B		28.8%		23.5%		16.7%		50.0%		25.0%
C		10.4%		0.0%		16.7%		25.0%		0.0%
D		2.1%		0.0%		0.0%		0.0%		8.3%

肯定率(全体)： 87.5% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
100%	83.3%	75.0%	91.7%	
68.8% [R5]、74.2% [R4]				

### 13 子どもは、学校に友人がいると言っている。

A	全学年	73.9%	1年	70.6%	2年	50.0%	3年	100%	4年	75.0%
B		14.0%		5.9%		33.3%		0.0%		16.7%
C		10.7%		17.6%		16.7%		0.0%		8.3%
D		1.5%		5.9%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 87.9% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
76.5%	83.3%	100%	91.7%	
84.8% [R5] 83.9% [R4]				

## 【学校としての受け止め方（分析）】

生徒の回答と比較すると、全体的に生徒の肯定率より保護者の肯定率のほうが高い結果になっている。この結果から、生徒は家庭で学校の不満をうまく伝えられないまま抱え込んでいるのではないかと分析できる。

### 項目1

肯定率は80%を超えているが、子ども家庭の状況から楽しみにしているように感じないと回答されている保護者の方がいることもしっかり受け止める必要がある。

### 項目2

今年度は生徒間トラブルがあり、保護者との面談や電話対応を行う機会が多かったが、保護者の要望を真摯に受け止め、対応を行ってきたことが反映されていると考えられる。

## 項目 4

こちらについても肯定率が 80%を超えているが、夏休みに実施している保護者懇談だけではなく、さまざまな場面で要望を伝えたいと感じておられる保護者の方もいる。

## 項目 13

生徒の回答と保護者の回答がおおむね一致しているため、生徒が人間関係について家庭で話しており、保護者も理解していることがわかる。

### 【今後の方向性について（対応）】

生徒は、人間関係については保護者と共有しているが、学校での不満等は伝えきれていないように感じる。生徒の項目でも記述したが、面談や日ごろのコミュニケーションの中で、生徒一人ひとりの考えや不満を丁寧に吸い上げることが大切であると考えます。

また、保護者との話す機会について、夏休みの面談以外にも各行事の参観の機会を活用することや、年末や年度末に電話連絡を実施するなど保護者の方からの要望を聞く機会を多く持つことが大切であると考えています。

## 《学年（3年次）》

### ■生徒アンケート項目および集計結果

#### 1 学校に行くのが楽しい。

A	全 学 年	28.6%	1 年	33.3%	2 年	14.3%	3 年	8.3%	4 年	47.1%
B		37.1%		44.4%		35.7%		25.0%		35.3%
C		27.1%		11.1%		50.0%		58.3%		11.8%
D		7.1%		11.1%		0.0%		8.3%		5.9%

肯定率(全体)： 65.7% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
77.8%	50.0%	33.3%	82.3%	
68.1% 【R5】、73.8% 【R4】				

#### 2 この学校に入学してよかったと思う。

A	全 学 年	41.4%	1 年	37.0%	2 年	35.7%	3 年	41.7%	4 年	52.9%
B		47.1%		51.9%		42.9%		50.0%		41.2%
C		10.0%		11.1%		21.4%		8.3%		0.0%
D		1.4%		0.0%		0.0%		0.0%		5.9%

肯定率(全体)： 88.5% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	78.6%	91.7%	94.1%	
86.5% 【R5】、84.6% 【R4】				

#### 3 学校に友人がいる。

A	全 学 年	65.7%	1 年	55.6%	2 年	64.3%	3 年	58.3%	4 年	88.2%
B		22.9%		29.6%		14.3%		33.3%		11.8%
C		5.7%		7.4%		14.3%		0.0%		0.0%
D		5.7%		7.4%		7.1%		8.3%		0.0%

肯定率(全体)： 88.6% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
85.2%	78.6%	91.7%	100%	
83.8% 【R5】、90.8% 【R4】				

#### 4 学校の先生は、生徒の話を聞いてくれる機会がよくある。

A	全 学 年	45.7%	1 年	40.7%	2 年	35.7%	3 年	41.7%	4 年	64.7%
B		45.7%		48.1%		50.0%		58.3%		29.4%
C		8.6%		11.1%		14.3%		0.0%		5.9%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 91.4% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	85.7%	100%	94.1%	
87.8% 【R5】、93.8% 【R4】				

### 【学校としての受け止め方（分析）】

今年度の3年次生徒の回答状況は、全質問項目の7割近くにおいて肯定率が100%、残りの質問項目についても肯定率が90%を超え、平均肯定率は94.2%と非常に高い肯定率をなっている。

今年度は、これまで学年に関わっていた教員が総入れ替えとなり、その影響を危惧していたが、

3年目を迎えた生徒たちの成長もあってか、平均的にみるとこれまで以上に高い肯定率となった。

1. 学校に行くのが楽しい。(R5 84.6%⇒R6 33.3%)【減少】

唯一、著しく低い肯定率となっている項目である。今後の学級運営改善のヒントがあると考えられるため、重点的に分析していきたい。

肯定率の大幅な低下の原因を探るため、以下の5点を分析していく。

① 人間関係（友人・教員も含む）の変化

本学年の在籍生徒数は非常に少なく、人間関係の拗れがクラス全体に与える影響は大きい。これまでも生徒間での人間関係の影響は感じており、それらによる肯定率の低下が要因の一つだと考えられる。

② 日頃の授業

質問項目	R5 肯定率	R6 肯定率
5. 授業はわかりやすい	100%	91.7% ↓
6. 授業でわからないことについて質問しやすい	100%	83.3% ↓

学校生活のほとんどを占める授業に関する肯定率はわずかに低下している。これも質問1の肯定率低下の要因になっていると考えられる。また、年度途中における授業担当者の変更等の影響を受けた学年でもあるため、その影響も小さくなかったと考えられる。

③ 学校行事

質問項目	R5 肯定率	R6 肯定率
13. 文化祭は、楽しく行えるように工夫されている	80.0%	91.7% ↑
14. 体育祭は、楽しく行えるように工夫されている	93.3%	100% ↑

学校行事に関する肯定率はどちらも増加しており、修学旅行の生徒の反応も良かったため、学校行事は生徒たちにとって充実したものであったと考えられる。

④ 生徒から見た教員の関わり（生徒指導も含む）への納得感

質問項目	R5 肯定率	R6 肯定率
7. 悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い	93.3%	100% ↑
8. 先生はいじめや私たちが困っていることなどについて、真剣に対応してくれる	93.3%	100% ↑
10. 学校生活についての先生の生徒指導は納得できる	80.0%	100% ↑

教員の関りや生徒指導については、生徒は一定の納得感を持っていると考えられ、「先生が相手してくれないから楽しくない。」「先生の対応に納得がいかないから楽しくない。」という要因は少ないと考えられる。

⑤ 保護者アンケートから（回答数：4）

質問項目	R6 肯定率
1. 子どもは学校に行くのを楽しみにしている。	0.0%
2. 先生は子どもを理解している。	25.0%
5. 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。	0.0%
8. 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	25.0%

保護者アンケートにおける以上の項目の肯定率が著しく低かった。全体の傾向と判断するには回答数が少ないが、①先生の対応に不満を感じている②授業が分からず楽しくないと感じている生徒また保護者が一定数、存在することは重く受け止める必要があると考えている。ただ生徒と保護者の回答には乖離している部分もあるため、保護者とのコミュニケーションを増加させ、適切な情報収集が必要であると考えている。

## 2. この学校に入学してよかったと思う。(R5 86.7%⇒R6 91.7%)【増加】

「学校に行くのが楽しい」の肯定率が大幅に下がっている中で、肯定率が増加している要因は、以下の3つだと分析している。

- ① 少なくとも1人以上は友人ができた。（「学校に友人がいる」と同程度の肯定率）
- ② 高校生活の中で、生徒自身が成長（社会性など）を実感できている。
- ③ 学校に入学し、教員やSC・SSW、外部の支援機関からのサポートを通して、就労（在学中のアルバイトも含む）など、これまで自分自身の力だけでは実現が困難だった実現ことへの達成感を生徒が感じている。

ほとんどの生徒が「学校内で孤立している」という状況ではなく、他学年との繋がり（兄弟など）があると認識している。本学年は、ほとんどの生徒がアルバイト経験をしているなど、本校に入学したことで自らの社会経験等が増えた生徒は多いと考えている。

## 3. 学校に友人がいる。(R5 91.3%⇒R6 91.7%)【維持】

昨年度と比べ、友人の数や関係性に変化はあるはずだが、友人がいるという実感は変化していない。ただし、全員（100%）ではないことも例年と同じである。

## 4. 学校の先生は、生徒の話を聞いてくれる機会がよくある。(R5 91.3%⇒R6 100%)【微増】

微増ではあるものの、これまで否定的な回答をしていた生徒が肯定的に変わったことは良かったと感じている。今年度は、行事の前後に毎回生徒と個人面談を実施した。また、副担任の先生方の日頃の声掛けにより、高い肯定率になっていると思われる。

### 【今後の方向性について（対応）】

ほとんどの項目が高い肯定率であるため、大きく方向性を考え直す必要はないと考えている。ただし、クラスとして一致団結しているクラスになれていないと感じており、引き続き、学年団や授業担当者として協力しながらで生徒を見守っていくことが必要と感じている。

来年度は、生徒たちの卒業年度であり進路についても本格的に動き出していくため、より生徒と

のコミュニケーションを密に取りながら学級運営を行っていききたい。

今年度、生徒との個人面談を例年と比較しても非常に多く実施した。これにより、生徒の声を聴く機会としてだけでなく、教員の想いを丁寧に伝えることができたため、今後も実施していききたい。

また、授業に関しては学年のみで対応できることではないが、生徒の声を聴きながら担当者とのコミュニケーションも積極的に行っていきたいと考えている。

## ■保護者アンケート項目および集計結果

### 1 子どもは学校に行くのを楽しみにしている。

A	全学年	33.3%	1年	47.1%	2年	33.3%	3年	0.0%	4年	25.0%
B		41.0%		29.4%		50.0%		0.0%		66.7%
C		23.1%		17.6%		16.7%		100%		8.3%
D		2.6%		5.9%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 74.3% [R6]			
1年	2年	3年	4年
76.5%	83.3%	0%	91.7%
62.5% [R5]、80.6% [R4]			

### 2 先生は子どもを理解している。

A	全学年	51.3%	1年	58.8%	2年	33.3%	3年	25.0%	4年	50.0%
B		41.0%		35.3%		66.7%		0.0%		50.0%
C		7.7%		5.9%		0.0%		75.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 92.3% [R6]			
1年	2年	3年	4年
94.1%	100%	25.0%	100%
75.8% [R5]、90.3% [R4]			

### 4 保護者として学校への要望を伝える機会がある。

A	全学年	66.7%	1年	76.5%	2年	66.7%	3年	25.0%	4年	66.7%
B		25.6%		23.5%		16.7%		50.0%		25.0%
C		5.1%		0.0%		16.7%		25.0%		0.0%
D		2.6%		0.0%		0.0%		0.0%		8.3%

肯定率(全体)： 92.3% [R6]			
1年	2年	3年	4年
100%	83.3%	75.0%	91.7%
90.6% [R5]、87.1% [R4]			

### 13 子どもは、学校に友人がいると言っている。

A	全学年	61.5%	1年	70.6%	2年	50.0%	3年	0.0%	4年	75.0%
B		23.1%		5.9%		33.3%		100%		16.7%
C		12.8%		17.6%		16.7%		0.0%		8.3%
D		2.6%		5.9%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 84.6% [R6]			
1年	2年	3年	4年
76.5%	83.3%	100%	91.7%
84.8% [R5] 83.9% [R4]			

## 【学校としての受け止め方（分析）】

1,2年次と比較し大きく変わったことは、担任の保護者連絡が減ったことである。その他の業務等の優先順位を考えた結果、3年次ということもありこまめな連絡は行わないようになった。そのため、生徒が家庭で保護者に話している内容など、保護者との連携が希薄になっていたことが、特に「先生は子どもを理解している。」の肯定率低下の要因だと考えられる。

## 【今後の方向性について（対応）】

今年度は、こまめな保護者連絡を行う余裕があまりなかったが、来年度は生徒の進路など保護者の方と連携を取りながら進めていく必要があるため、密な保護者との連携を心掛けていく。

《学年（4年次）》

■生徒アンケート項目および集計結果

1 学校に行くのが楽しい。

A	全学年	25.8%	1年	33.3%	2年	14.3%	3年	8.3%	4年	47.1%
B		35.1%		44.4%		35.7%		25.0%		35.3%
C		32.8%		11.1%		50.0%		58.3%		11.8%
D		6.3%		11.1%		0.0%		8.3%		5.9%

肯定率(全体)： 60.9% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
77.8%	50.0%	33.3%	82.3%	
68.1% [R5]、73.8% [R4]				

2 この学校に入学してよかったと思う。

A	全学年	41.8%	1年	37.0%	2年	35.7%	3年	41.7%	4年	52.9%
B		46.5%		51.9%		42.9%		50.0%		41.2%
C		10.2%		11.1%		21.4%		8.3%		0.0%
D		1.5%		0.0%		0.0%		0.0%		5.9%

肯定率(全体)： 88.3% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	78.6%	91.7%	94.1%	
86.5% [R5]、84.6% [R4]				

3 学校に友人がいる。

A	全学年	66.6%	1年	55.6%	2年	64.3%	3年	58.3%	4年	88.2%
B		22.3%		29.6%		14.3%		33.3%		11.8%
C		5.4%		7.4%		14.3%		0.0%		0.0%
D		5.7%		7.4%		7.1%		8.3%		0.0%

肯定率(全体)： 88.9% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
85.2%	78.6%	91.7%	100%	
83.8% [R5]、90.8% [R4]				

4 学校の先生は、生徒の話を聞いてくれる機会がよくある。

A	全学年	45.7%	1年	40.7%	2年	35.7%	3年	41.7%	4年	64.7%
B		46.5%		48.1%		50.0%		58.3%		29.4%
C		7.8%		11.1%		14.3%		0.0%		5.9%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 92.2% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	85.7%	100%	94.1%	
87.8% [R5]、93.8% [R4]				

【学校としての受け止め方（分析）】

どの項目も肯定率が高い。入学直後はまだまだ学校生活に対する不安が多い中、さまざまな経験を重ねるうちに少しずつ良好な友人関係が築けるようになり、最終学年では、楽しさを生徒自身で見いだせるようになってきた結果であると考えられる。

【今後の方向性について（対応）】

4年間を見据えての生徒の活動を、今後も考えていかなければならない。生徒のさまざまな活動の中に、教員自身が「成果」「結果」を出すことにこだわりすぎないように、生徒のペースを考慮しながらゆっくりと進めていく必要がある。

■保護者アンケート項目および集計結果

1 子どもは学校に行くのを楽しみにしている。

A	全学年	47.9%	1年	33.3%	2年	33.3%	3年	100%	4年	25.0%
B		39.4%		41.0%		50.0%		0.0%		66.7%
C		12.7%		25.7%		16.7%		0.0%		8.3%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 87.3% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
74.3%	83.3%	100%	91.7%	
62.5% [R5]、80.6% [R4]				

2 先生は子どもを理解している。

A	全学年	41.8%	1年	58.8%	2年	33.3%	3年	25.0%	4年	50.0%
B		38.0%		35.3%		66.7%		0.0%		50.0%
C		20.2%		5.9%		0.0%		75.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 79.8% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
94.1%	100%	25.0%	100%	
75.8% [R5]、90.3% [R4]				

4 保護者として学校への要望を伝える機会がある。

A	全学年	58.7%	1年	76.5%	2年	66.7%	3年	25.0%	4年	66.7%
B		28.8%		23.5%		16.7%		50.0%		25.0%
C		10.4%		0.0%		16.7%		25.0%		0.0%
D		2.1%		0.0%		0.0%		0.0%		8.3%

肯定率(全体)： 87.5% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
100%	83.3%	75.0%	91.7%	
68.8% [R5]、74.2% [R4]				

13 子どもは、学校に友人がいると言っている。

A	全学年	73.9%	1年	70.6%	2年	50.0%	3年	100%	4年	75.0%
B		14.0%		5.9%		33.3%		0.0%		16.7%
C		10.7%		17.6%		16.7%		0.0%		8.3%
D		1.5%		5.9%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 87.9% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
76.5%	83.3%	100%	91.7%	
84.8% [R5] 83.9% [R4]				

【学校としての受け止め方（分析）】

どの項目も肯定率が高い。生徒から保護者に学校生活についての連絡・報告ができていながらも、担任から家庭への連絡をこまめに実施した結果であると考えられる。

【今後の方向性について（対応）】

生徒と教員が話す時間を確保することで、生徒だけでなく保護者の学校への信頼感も高まる。さまざまな学校業務の見直しをおこないながら、どの教員も生徒との時間を十分に確保できるようにしていかなければならない。

《支援委員会》

■生徒アンケート項目および集計結果

3 学校に友人がいる。

A	全学年	65.7%	1年	55.6%	2年	64.3%	3年	58.3%	4年	88.2%
B		22.9%		29.6%		14.3%		33.3%		11.8%
C		5.7%		7.4%		14.3%		0.0%		0.0%
D		5.7%		7.4%		7.1%		8.3%		0.0%

肯定率(全体)： 88.6% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
85.2%	78.6%	91.7%	100%	
83.8% [R5]、90.8% [R4]				

7 悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。

A	全学年	48.6%	1年	48.1%	2年	42.9%	3年	41.7%	4年	58.8%
B		41.4%		37.0%		42.9%		58.3%		35.3%
C		10.0%		14.8%		14.3%		0.0%		5.9%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 90.0% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
85.2%	85.7%	100%	94.1%	
90.5% [R5]、89.2% [R4]				

9 担任の先生以外にも、気軽に相談できる先生がいる。

A	全学年	47.1%	1年	40.7%	2年	42.9%	3年	50.0%	4年	58.8%
B		28.6%		18.5%		28.6%		50.0%		29.4%
C		20.0%		33.3%		28.6%		0.0%		5.9%
D		4.3%		7.4%		0.0%		0.0%		5.9%

肯定率(全体)： 75.7% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
59.3%	71.4%	100%	88.2%	
79.7% [R5]、76.9% [R4]				

17 学校では、自他を思いやる心や命の大切さ、また社会のルールについて学ぶ機会がある。

A	全学年	51.4%	1年	40.7%	2年	42.9%	3年	58.3%	4年	70.6%
B		42.9%		48.1%		50.0%		41.7%		29.4%
C		4.3%		7.4%		7.1%		0.0%		0.0%
D		1.4%		3.7%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 94.3% [R6]				
1年	2年	3年	4年	
88.9%	92.9%	100%	100%	
86.5% [R5]、83.1% [R4]				

【学校としての受け止め方（分析）】

3：人間関係の構築を苦手とする生徒が多い中、肯定率 88.6%は高いと思われる。3 年間の変化も大きく変わらない。本校において新年度のクラス開き、HR や行事を通して相互理解する機会を上手く活用できていると考えられる。

7. 9. 17：本校では SC・SSW との面談については、支援委員会より生徒・保護者向けに紹介した配付物を見て希望した生徒や、担任・保健室・支援委員会から面談が必要と思われる生徒を抽出し勧めるという方法で活用している。

今年度の SC 面談対象者は新規 7 名、継続 7 名（昨年度は新規 7 名、継続 4 名）、SSW 面談対象者は新規 3 名。また、面談前後にケース会議を開いたことで、情報を整理でき面談がよりスムーズになり、また不登校状態が続く生徒や保護者へも面談を設定したことで生徒対応の助言を得ることができた。

保健室の利用者数は、昨年度から増加傾向がみられ精神的な理由での来室者も多い。来室しやすい保健室を運営し、相談に応じ登校支援を行っている。生徒情報については担任と連携し情報共有していることから保健室利用の理解を教員に得られており、生徒も利用しやすいと思われる（内科的来室者数：R 5 年度 665 名、R 6 年度 12 月末時点 770 名）。

「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」の否定的な回答は全体で 24.3%、1 年は 40.7%と高めである。担任との人間関係が良好ともとれるが他の教員等と話す機会が少ないと思われる。

【今後の方向性について（対応）】

3：コミュニケーション力を高め、自分の感情をコントロールする力は人間関係を構築するために必要である。現在、1 年生で実施している SST の事後アンケートでは「ためになった」と回答する率は 79%あり、効果がみられるため継続して実施していくことが望ましい。また、人間関係による悩みなどは、SC 面談の活用をすすめる。

7. 9. 17：支援委員会としては生徒の困り感を重視し、今後も学年の情報をもとに委員会で情報共有し支援の必要な生徒の対応を検討する。支援委員会の役割が全教員により明確になるよう組織的な支援体制（対応の流れ）を示す。来年度の新入生対応として、SC・SSW の面談希望の有無が把握できるよう、学校生活支援カードに項目を追加する予定。

■保護者アンケート項目および集計結果

9 子どもの心身の健康について、学校へ気軽に相談できる。

A	全学年	71.8%	1年	88.2%	2年	50.0%	3年	25.0%	4年	75.0%
B		23.1%		11.8%		50.0%		25.0%		25.0%
C		5.1%		0.0%		0.0%		50.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 94.9% [R6]			
1年	2年	3年	4年
100%	100%	50.0%	100%
97.0% [R5]、87.1% [R4]			

13 子どもは、学校に友人がいると言っている。

A	全学年	61.5%	1年	70.6%	2年	50.0%	3年	0.0%	4年	75.0%
B		23.1%		5.9%		33.3%		100%		16.7%
C		12.8%		17.6%		16.7%		0.0%		8.3%
D		2.6%		5.9%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 84.6% 【R6】			
1年	2年	3年	4年
76.5%	83.3%	100%	91.7%
84.8% 【R5】 83.9% 【R4】			

14 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。

A	全学年	59.0%	1年	47.1%	2年	66.7%	3年	50.0%	4年	75.0%
B		38.5%		47.1%		33.3%		50.0%		25.0%
C		2.6%		5.8%		0.0%		0.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 97.5% 【R6】			
1年	2年	3年	4年
94.2%	100%	100%	100%
96.9% 【R5】、93.5% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

肯定率はいずれも高く、保護者は生徒の様子から学校の取り組みを評価してくれている。

【今後の方向性について（対応）】

支援委員会からの配付物を継続し、学校の支援体制、SC・SSWの活用についてわかりやすく発信していく。

《人権教育推進委員会》

■生徒アンケート項目および集計結果

8 先生はいじめや私たちが困っていることなどについて、真剣に対応してくれる。

A	全学年	54.3%	1年	40.7%	2年	64.3%	3年	58.3%	4年	64.7%
B		37.1%		44.4%		21.4%		41.7%		35.3%
C		8.6%		14.8%		14.3%		0.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 91.4% 【R6】			
1年	2年	3年	4年
85.2%	85.7%	100%	100%
94.6% 【R5】、93.8% 【R4】			

17 学校では、自他を思いやる心や命の大切さ、また社会のルールについて学ぶ機会がある。

A	全学年	51.4%	1年	40.7%	2年	42.9%	3年	58.3%	4年	70.6%
B		42.9%		48.1%		50.0%		41.7%		29.4%
C		4.3%		7.4%		7.1%		0.0%		0.0%
D		1.4%		3.7%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 94.3% 【R6】			
1年	2年	3年	4年
88.9%	92.9%	100%	100%
86.5% 【R5】、83.1% 【R4】			

19 学校で差別事象や自らの人権について学ぶ機会がある。

A	全学年	61.4%	1年	44.4%	2年	57.1%	3年	66.7%	4年	88.2%
B		28.6%		37.0%		28.6%		33.3%		11.8%
C		10.0%		18.5%		14.3%		0.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 90.0% 【R6】			
1年	2年	3年	4年
81.5%	85.7%	100%	100%
83.8% 【R5】、83.1% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

8：この3年間9割以上の肯定率が続いており、年3回のいじめアンケートへの対応や学年のきめ細やかな指導の成果が表れていると考えられる。

17・19：学年が上がるにつれ、肯定率が上がっていることから、各学年及び全体の人権教育の積み重ねが成果を上げていると考えられる。また今年度実施した同意・境界線に関する教職員研

修と生徒の事前学習、人権講演会が19の肯定率アップにつながったのではないかと。

【今後の方向性について（対応）】

本校では全教職員が、いじめアンケートへの対応のみならず、日ごろから生徒のサインに気づき、適切な対応を取ることができるよう、日々努力している。今後も継続して研修等を行う。

■保護者アンケート項目および集計結果

8 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。

A	全 学 年	64.1%	1 年	58.8%	2 年	83.3%	3 年	25.0%	4 年	75.0%	肯定率(全体)： 92.3% 【R6】			
B		28.2%		41.2%		16.7%		0.0%		25.0%	1年	2年	3年	4年
C		5.1%		0.0%		0.0%		50.0%		0.0%	100%	100%	25.0%	100%
D		2.6%		0.0%		0.0%		25.0%		0.0%	93.9% 【R5】	80.6% 【R4】		

14 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。

A	全 学 年	59.0%	1 年	47.1%	2 年	66.7%	3 年	50.0%	4 年	75.0%	肯定率(全体)： 97.5% 【R6】			
B		38.5%		47.1%		33.3%		50.0%		25.0%	1年	2年	3年	4年
C		2.6%		5.8%		0.0%		0.0%		0.0%	94.2%	100%	100%	100%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	96.9% 【R5】	93.5% 【R4】		

18 学校はスマホやSNSの利用に関わる指導を行い、子どもに個人情報を守る大切さを理解させようと努めている。

A	全 学 年	46.2%	1 年	47.1%	2 年	33.3%	3 年	25.0%	4 年	58.3%	肯定率(全体)： 92.4% 【R6】			
B		46.2%		41.2%		66.7%		75.0%		33.3%	1年	2年	3年	4年
C		7.7%		11.8%		0.0%		0.0%		8.3%	88.2%	100%	100%	91.7%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	93.8% 【R5】	90.3% 【R4】		

【学校としての受け止め方（分析）】

全体的に、生徒の肯定率とほぼ同じ肯定率であることから、学校の方向性について概ねご理解いただけていると感じている。8について、3年次の肯定率が25%であったことについては、今後学年との連携を強化し、回答の要因などをしっかり分析していく必要がある。

【今後の方向性について（対応）】

8について、人推委として学年に分析と対応について検討を依頼している。

《学情ネットワーク委員会》

■生徒アンケート項目および集計結果

23 学校は、1人1台端末を効果的に活用している。

A	全 学 年	55.7%	1 年	63.0%	2 年	42.9%	3 年	75.0%	4 年	41.2%	肯定率(全体)： 94.3% 【R6】			
B		38.6%		33.3%		50.0%		25.0%		47.1%	1年	2年	3年	4年
C		5.7%		3.7%		7.1%		0.0%		11.8%	96.3%	92.9%	100%	88.2%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	89.2% 【R5】	87.7% 【R4】		

【学校としての受け止め方（分析）】

No. 23 【5.2%増加】

今年度からすべての在学生在が「1年次の頃から1人1台端末の環境が整っている」学年になった。特にHR活動において担任の先生等が1人1台端末を効果的に活用する機会が増えたことが肯定率の上昇の要因と考えられる。

具体的には、

- ・海外在住の卒業生とのオンライン進路体験発表
- ・修学旅行先とのオンライン事前学習

など、1人1台端末だからこそ可能な学びを展開することができる体制になってきている。

また、観点別学習評価を実施している学年の肯定率が90%を超えている。これは、「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に向かう態度」の評価において、ICT端末を用いた成果物や発表等を実施する授業が増えたことが要因だと考えられ、「指導と評価の一体化」が1人1台端末を媒介にして実現しはじめていると考えられる。

【今後の方向性について（対応）】

No. 23

今後の方向性としては、「分かる」「できる」「楽しい」授業のより一層の実現に向けて、効果的な活用方法を継続的に模索し、学校全体に校内研修等を通して普及していきたいと考えている。

また、生成AIが今後の学校教育に与える影響を考え、校務や授業への活用方法を検討し、校内研修等で周知していくことを検討している。その反面、生成AIを生徒が使用することによる問題などについても校内で検討する必要がある。SNSをはじめとしたデジタル端末のトラブルに巻き込まれないための教育を今後も検討していく必要があると考えている。

《管理職・首席》

■生徒アンケート項目および集計結果

20 先生は、責任をもって授業やその他の仕事に当たっている。

A	全学年	52.9%	1年	44.4%	2年	42.9%	3年	66.7%	4年	64.7%
B		41.4%		51.9%		42.9%		33.3%		29.4%
C		5.7%		3.7%		14.3%		0.0%		5.9%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 94.3% 【R6】			
1年	2年	3年	4年
96.3%	85.7%	100%	94.1%
95.9% 【R5】、95.4% 【R4】			

21 先生は、お互いに協力し合っている。

A	全学年	61.4%	1年	51.9%	2年	50.0%	3年	66.7%	4年	82.4%
B		35.7%		48.1%		35.7%		33.3%		17.6%
C		2.9%		0.0%		14.3%		0.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 97.1% 【R6】			
1年	2年	3年	4年
100%	85.7%	100%	100%
95.9% 【R5】、93.8% 【R4】			

【学校としての受け止め方（分析）】

肯定率について、20は微減、21は微増しているが、概ね例年通り、高い状態を維持することが

できた。個人の力量に依存せず、組織的な学校運営をめざしてきた本校にとって、生徒からも教員同士が協力していると見られていることは組織の関係性が良好だと評価できる。年次進行とともに、Aの割合が20、21ともに上昇していることを鑑みると、教職員への信頼や教職員同士のチームワークが学校全体の安心安全などの重要な要素であると捉えている。

【今後の方向性について（対応）】

特定の教職員だけでなく、学校全体で支える風土をさらに醸成していきたい。そのためには、R5年度からの新分掌体制における組織的な学校運営が効果的に機能しているか、検証しながら改善をしていく必要がある。スクール・ミッション、スクール・ポリシーをはじめとする本校の特色を大切にしながら、「授業力の向上」「対応力の向上」「コンテンツの充実」を柱に学び合う同僚性とチームワークのさらなる充実をめざしたい。

■保護者アンケート項目および集計結果

3 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。

A	全 学 年	52.6%	1 年	58.8%	2 年	50.0%	3 年	25.0%	4 年	54.5%
B		42.1%		35.3%		50.0%		75.0%		36.4%
C		5.3%		5.9%		0.0%		0.0%		9.1%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 94.7% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
94.1%	100%	100%	90.9%	
87.5% 【R5】、87.1% 【R4】				

4 保護者として学校への要望を伝える機会がある。

A	全 学 年	66.7%	1 年	76.5%	2 年	66.7%	3 年	25.0%	4 年	66.7%
B		25.6%		23.5%		16.7%		50.0%		25.0%
C		5.1%		0.0%		16.7%		25.0%		0.0%
D		2.6%		0.0%		0.0%		0.0%		8.3%

肯定率(全体)： 92.3% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
100%	83.3%	75.0%	91.7%	
90.6% 【R5】、87.1% 【R4】				

15 学校は学習環境を充実させるために施設・設備の管理を行っている。

A	全 学 年	64.1%	1 年	64.7%	2 年	83.3%	3 年	25.0%	4 年	66.7%
B		33.3%		35.3%		16.7%		75.0%		25.0%
C		2.6%		0.0%		0.0%		0.0%		8.3%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 97.4% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
100%	100%	100%	91.7%	
93.8% 【R5】、90.3% 【R4】				

17 この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。

A	全 学 年	84.6%	1 年	82.4%	2 年	66.7%	3 年	100%	4 年	91.7%
B		15.4%		17.6%		33.3%		0.0%		8.3%
C		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 100% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
100%	100%	100%	100%	
87.5% 【R5】、80.6% 【R4】				

19 学校では個人情報適切に管理している。

A	全 学 年	66.7%	1 年	70.6%	2 年	50.0%	3 年	50.0%	4 年	75.0%
B		33.3%		29.4%		50.0%		50.0%		25.0%
C		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 100% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
100%	100%	100%	100%	
97.0% 【R5】、90.3% 【R4】				

20 学校は、教育情報について、提供の努力をしている。

A	全 学 年	61.5%	1 年	58.8%	2 年	50.0%	3 年	25.0%	4 年	83.3%
B		33.3%		41.2%		50.0%		50.0%		8.3%
C		5.1%		0.0%		0.0%		25.0%		8.3%
D		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

肯定率(全体)： 94.8% 【R6】				
1年	2年	3年	4年	
100%	100%	75.0%	91.7%	
93.9% 【R5】、90.3% 【R4】				

### 【学校としての受け止め方（分析）】

すべての項目で 90%以上の肯定的な回答となっていることに関して、保護者の皆さまには、本校のさまざまな教育活動に大変ご理解をいただいていると受け取らせていただいております。誠にありがとうございます。

ただ、一方で今回の学校教育自己診断の回答率は約 40%と半数を下回る状況であり、また項目の 4 や 20 などから、保護者の皆さまへ教育活動についての情報発信やご要望をお聞きする機会が十分ではないことが伺えます。保護者の皆さまにより一層、本校の教育活動にご興味・ご関心をいただくためにも、真摯に受けて止めさせていただき、今後の改善に努めたいと思います。

### 【今後の方向性について（対応）】

現在、教育活動の情報の発信には、保護者の皆さまに向けた文書や学年通信など書面での伝達をメインで行っており、これらの書面は生徒を通じ、保護者の皆さまに届く形となっております。今後は、デジタルツールを活用し、これらの情報を保護者の皆さまにダイレクトでお伝えできるシステムの運用を進めたいと考えております。また、HPやブログの情報なども整理を行うことにより、今まで以上に教育活動の情報をご覧になっていただきやすい形にできればと考えております。さらに、保護者の皆さまからのご意見やご要望につきましては、現在のところお電話やご来校時に各学級担任などに直接お伝えいただく方法だけかと思っております。こちらについてもデジタルツールを活用し、より簡便に多くの方からご意見やご要望を頂戴できるシステムを検討できればと考えております。